総合学科の創造性　地域の力に

No.12

新志苅（にしめ）通信

令和８年１０月１日
秋田県立西目高等学校

卒業生講話　【9月16日(水)】

この３月に卒業した先輩たち５名を迎え、１年生に対して卒業生講話が行われました。卒業生のみなさんは、自分の高校時代をふり返りながら、どうやって「今」に繋がってきたかを、それぞれの言葉で話してくれました。生徒たちは先輩たちの言葉を一生懸命にメモを取りながら聴いていました。１年生のみなさんは、話してくれていた先輩の様子を思い出しながら、２・３年生は今後の自分の学校生活をより良くすることをイメージしながら読んでみてください。参考になるところはぜひ真似をしてみましょう。





由利本荘市役所

小沼　修陽 さん

私は現在、由利本荘市役所で働いている小沼修陽です。今日は、私が進路を決めたきっかけや、公務員試験の対策、そして社会人として働いてみて感じたことについてお話しします。

市役所に決めた理由

高校生の頃は、初めから市役所で働きたいと決めていたわけではありませんでした。進路について考えている中で、先生から「公務員を目指してみたらどうか」と勧められたことがきっかけで、市役所の仕事を意識するようになりました。どのような仕事をするか調べていくうちに、市役所は地域の方の生活に直接関わり、幅広い仕事をしていることを知りました。また、自分が住んでいる、これまでお世話になった地元に貢献できる仕事に興味を持ち、市役所を志望しました。

試験対策

公務員を目指すにあたって、力を入れたのが試験対策です。公務員試験は出題範囲が広く、最初はどこから手を付けていいか分からず不安でした。そこで私は、「毎日コツコツ計画的に進めること」を意識しました。

特に土木などの専門試験の対策では、学校で習う専門教科の授業を理解した上で、過去問を何回も繰り返し解くことで知識を覚えていきました。最初は解けなくても、何度も解き直すうちに、解ける問題が増えていきました。

公務員試験の対策は、できるだけ早めのうちから始めておくことを強くおすすめします。早めに準備をスタートして計画的に取り組むことが、合格に繋がります。

現在の業務内容とやりがい

現在は、産業振興部の農山漁村振興課に所属しており、主に森林に関わる仕事を担当しています。具体的には、森林の維持管理として実際に現場へ出て林道の状態や安全をチェックをし、傷んだ林道や橋などを安全に治すための設計を行ったりしています。また、市内で熊が出没した際には、地域の皆さんへ注意喚起のメールを送るなどの対応も行っています。

事務作業だけでなく現場に出て確認することもあるため自分の関わった仕事が市民の皆さんの安心や安全な暮らしに直接繋がっていると実感できるやりがいのある仕事です。

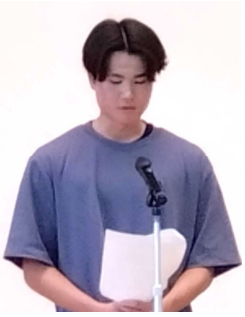
社会人として大切なこと

実際に働き始めて感じた、社会人として大切なことは、コミュニケーションです。学生の頃は、1人で問題を解決できることもありましたが、仕事では、わからないことや判断に迷うことがたくさんあります。そんな時に、分からないまま自分勝手に進めてしまうと、大きなミスにつながってしまいます。その時は、そのまま進めるのではなく、上司や先輩などに「報告、連絡、相談」することで、周りを頼り、協力して進めることが、仕事を進める上で重要だと学びました。

高校生のうちにやっておくべきこと

最後に、高校生のうちにやっておくべきことは、今のうちに資格を取ったり、いろいろな経験をすることだと思います。高校時代に頑張って取得した資格や技術は、社会に出てからのスキルになるだけでなく、進路の面接でも自分の強みを自信を持って話せるようになります。また、いろいろな経験をしておくと、自分がどんなことに興味があるのか、どんな仕事をしたいかを考えるきっかけになります。

皆さんがなりたい将来になれるように応援しています。



秋田県立大学

太田　暖陽 さん

みなさんこんにちは、私は、秋田県立大学の太田暖陽です。高校時代は、教養文化系列を選考し、サッカー部に所属していました、今日は、高校生活で取り組んだことと、今、大学に進学して感じていることを紹介し、少しでも役立てていただけたらなと思います。

高校での学習の進め方

まず初めに、私の高校での学習の進め方を紹介します。秋田県立大学に進学を決めたのは、高校2年生の夏です、担任の先生から進められて秋田県立大学に進学することを考え始めました。

進学を決めてからは、時間を有効に使い、学習することを大切にしていました、教養文化系列を選択していたため、数学Ⅲや数学、物理などの教科を自分で学習しなければなりませんでした。これらの対策としては、プリントを毎日もらい添削してもらったり、教科書や問題集を借りたりして、朝の時間や、休み時間、放課後など時間を有効に利用していました、毎日の積み重ねは、必ず結果に出ます。私も、高校で学習した結果が大学での学習にも生きています。もし、少しでも、進学を考えている人は文理系列を選択し、自分の進学先に近い教科を選択するほうが、学習がうまく進むと思います。

総合型選抜について

次に、私が受けた総合型選抜について紹介します。試験内容は、面接とプレゼンテーションでした。プレゼンテーションでは、探究活動の成果を発表するものでした。だから、2年生のころから、試験を見据えて、研究を進めていました。

高校2年生になると探究活動が始まり、テーマは自分で決めます。研究する内容については、どんなテーマでもいいと思いますが、充実したものにしてください、仮説を立て、細かいことを繰り返し研究し、結果を論証するようにしてください。そうすると、研究した内容がわかりやすくなり、説得力も増し、充実した研究になると思います。

面接で自分のことはなんとなくまとめていれば、ある程度のことは話せるので、大学について詳しく調べておく方がいいと思います。志望理由は必ず聞かれると思うので、志望理由だけは完璧にしておくべきだと思います。

大学に進学してから感じたこと

1. 自立することの重要性

次に、大学に進学してから感じたことを紹介します。まずは、自立することが一番大切だと思います。周りの人とは、すべて同じ教科を選択するわけではないし、自分で教科を選択して自分で登録しなければなりません、登録することを忘れると、必修科目であっても、単位を取ることはできません。それに、毎日のように課題が出ます 締切日は自分で覚えていないといけません、締切日が近くなってから注意喚起してくれる人はいないし、出さないと、単位を取れなかったり、試験を受ける資格をもらえなかったりします、進学すると一人暮らしになる人が多いと思います。ホームルームといったようなものはないし、遅刻しても、先生が電話をしてくれるわけでもなく、ただ、欠席ということにしかなりません、だから、自立する癖を高校のうちからつけておくべきだと思います。これは、進学の人だけでなく、就職の人にも言えることだと思います。友達と仲良くすることはいいことだし、一緒にいることも悪いことではありません。ただ、教科を誰かと同じものを選択したり、友達が休むから一緒に休んだり、友達を待って授業に遅刻するなどといったことは、自立しているとは言えません。だから、今のうちから、一人で判断して行動することを習慣化しておくべきだと思います。

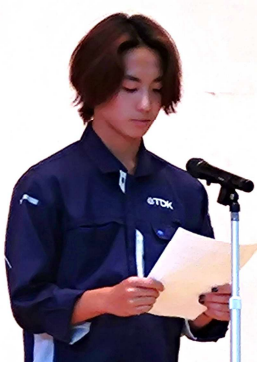
2. 日々の学習と試験対策

毎日少しずつ学習していくこともおすすめします。大学では、前期で履修した科目は、前期のうちに終了し、後期に新たな教科を履修することになります。つまり、前期と後期の最後に定期試験があり、範囲は、教科書一冊分すべてということになります。半年で教科書一冊分の学習をするので、かなり速いスピードで授業が進みます。だから、毎日の復習が重要になります。一夜漬けや一週間前からの学習だけでは、テスト範囲のすべてをカバーしきることはできません。だから、毎日、授業の内容を理解し、コツコツ自主学習を続けることが重要です。大学の試験では、60点未満は赤点で、再試験などがない場合もあります。だから、高校での定期試験では、赤点を取らないことを目指すのではなく、評定4か5を目指す必要があると思います。

高校生へのメッセージ

高校を出れば、周りは知らない人ばかりだし、自分のスケージュールは誰も管理してくれません。遅刻や欠席、提出漏れなどはすべて自己責任として成績や給料に影響します。だから、今の生活を大切にし、社会人または、大学生になるための準備を高校卒業までにやっておくといいと思います。

残りの高校生活を充実したものにしてください。



TDK株式会社

浅野　彩斗 さん

TDK 株式会社に勤めている浅野彩斗と申します。今日は皆さんの進路に向けて、私が会社を決めた理由、受験対策、高校生のうちにやっておくべきこと、社会人になって何を感じているかをお話したいと思います。

会社を決めた理由

私が進路を決めたのは3年生の5月頃です。5月に4者面談を行い、そこで私の進路が決まりました。最初は「何となく大学に行きたいな」と思っていました。ですが、大学を目指すうえでの目的やモチベーションが自分の中で失い、大学卒業後にどのような仕事に就きたいかも考えていませんでし

た。その前後では「専門学校に行きたいな」と思うこともありました。その理由は物の開発をしてみたいと思う自分がいたからです。ですが、実際に就職して開発業務に携わることもできるのではないかと考えました。もちろん専門学校に行き知識を蓄えるのも十分考えましたが、いち早く社会人として開発業務に近い仕事をしてみたいと考えるようになり、TDKに入社することを考えました。

受験対策について

TDKの試験では言語、計算、英文の試験、クレペリン検査・面接があります。全てCAB・GABという参考書に載っているので、TDK志望者はこちらの参考書を買ってください。クレペリン検査はひたすら足し算をする試験ですが、かなり大切なので必ず練習してください。最後に面接です。面接は本当にひたすら練習し、何回も面接ノートを書き直してください。様々な先生と練習し色々な質問を経験するのも良いと思いますし、担任の先生など同じ先生と練習し沢山修正するのも良いと思います。

高校生のうちにやっておくべきこと

一番は評定を上げることです。評定がある程度あれば進路への選択肢が広がりますし、得しかないのでとりあえず上げてくだされば と思います。そして、それと同等に部活にも力を入れてください。これは就職希望者以外にも共通することです。部活動での成績は履歴書に残るのでほんとに大切だと思います。私はサッカー部に所属しており、TDKにはたくさんの西目高校サッカー部の先輩方がいます。先輩方も高校生の頃に素晴らしい成績を残している方ばかりなので、会社の採用に関係しているかはわかりませんが、部活動に力を入れて損はないと思います。1年生はまだまだ時間がたくさんありますので、今からでもいいので部活動に本気で向き合ってみてください。

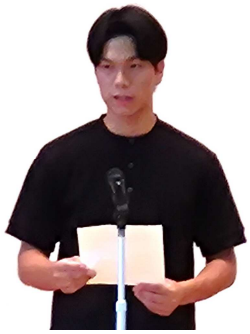
業務内容と社会人になって感じていること

私は主に開発業務のサポートをしています。例えば、開発中の製品の特性を測定したり、製品の構造を外観したり、他にもTDK製品の開発に関わる業務を行っています。

続いて社会人になって私が大切に感じていることについてです。それは仕事に興味を持つことです。私の職場の周りは大学や大学院を卒業している人ばかりです。仕事への知識量やパソコンの扱い方など自分よりかなり長けています。だからこそ、そういった先輩方にたくさん質問をし、知識を得ることが必要だと思います。そうすると自然に仕事に慣れていき、知識もほんとに少しずつですが頭に残っていきます。私もですが、高校一年生の皆さんも授業や部活などすべてのことに意欲的に取り組んでほしいと思います。

入社して最初の頃は仕事が難しすぎてストレスを抱えていましたが、あっという間に職場に慣れることができました。気づけば約半年たった今では平日はひたすら仕事をし、休日はサッカーをしたり、友達と遊んだり、ほんとに充実した毎日を送ることができています。まだ仕事には不安がありますがそれは私だけではないですし、これからその不安を乗り越えて社会人として成長できればなと思います。

皆さんの進路実現が上手くいくよう、私も応援しています。



秋田県立大学

小野　大輝 さん

みなさんこんにちは。昨年度、西目高校農業科学系列を卒業した小野大輝です。私は現在、秋田県立大学生物資源科学部アグリビジネス学科に進学し勉学に励んでいます。今日は、進路実現に向けて行った取り組みや大学生活について紹介します。

進路決定の経緯

私はもともと「将来農家になりたい」と考えていたため、高校入学時点では卒業後に農業関係の仕事へ就職し、働きながら知識や技術を深めたいと思っていました。しかし、3年生の5月、先生からの勧めや家族との話し合いをきっかけに、「より専門的に農業について学びたい」という思いが強くなり、大学進学へと進路を変更しました。その後、第一志望を福島大学、第二志望を秋田県立大学と決め、受験勉強に取り組みました。結果として第一志望の福島大学には合格できませんでしたが、第二志望の秋田県立大学に合格し、進学が決定しました。

受験対策（小論文 面接）

私が受験した両大学ともに、小論文と面接のみの受験方法であったため、小論文対策と面接対策に力を入れました。

小論文対策: 小論文には様々な出題形式があるため、募集要項や過去問を確認し、出題形式を把握することが重要です。私は、過去問題を用いた練習に加え、新聞記事を使った対策も行いました。

面接対策: 10回以上先生方にお願いして練習することが重要です。回数をこなすことで、面接に対する自信がつき、自分の考えをしっかり伝えたいという意欲も高まります。また、大学では口頭試問が行われる場合があります。筆記試験とは異なり、その場で考え、言葉で答える必要

があるため難しさを感じました。考える時間も短いため、募集要項で出題形式を確認し、十分対策しておきましょう。

大学生活について

私は大学に入ったらすぐに専門的な農業の勉強や実習ができると楽しみにしていたのですが、1年生の現在は、履修する教科のほとんどが全学共通の普通科目でした。英語や基礎的な一般教養、座学の講義が中心で、思い描いていたような本格的な農業の専門学びはまだほとんど始まっていません。

また、大学の講義は高校の授業とは異なり大人数に対して行います。さらにワーク提出などといった宿題もなく、勉強をするかどうか学力をつけるためには自分のやる気次第です。誰かに強制されない分、自分から動かないとただ単位を取るだけで終わってしまいます。大学生活を意味のあるものにできるかは、まさに自分次第だと実感しています。

高校生へのアドバイス

高校時代にしておくべきだと強く感じるのは「今しかできない活動に全力で取り組み、様々なことを経験すること」です。部活動や学校行事など、何かに熱中した経験は面接での強いアピールポイントになりますし、大学で自主的に動くための自信や行動力にも直結します。だからこそ、受験勉強だけに追われるのではなく、今の高校生活そのものを全力で楽しんで、色々なことに挑戦してほしいです。

最後に、学校や企業選びは、単に入れるレベルで選ぶのではなく、自分がどんな環境でどんな成長をしたいかで選ぶことが大切だと思います。ぜひインターンシップやオープンキャンパスで、その職場、学校の空気感を肌で確かめてみてください。みなさんが自分のめざす進路へ進めるのを応援しています。



長田建設株式会社

佐藤　星那 さん

私が就職試験に合格するために取り組んできたことや実際に働き始めてから感じる社会人として大切なことや必要なことを紹介します。

試験のために取り組んだこと

一つ目は定期考査です。自分は考査で赤点を取らずに評定は最低でも3.5以上取れるように取り組んでいました。その取り組んだ中で大事だと思ったのが授業で習ったところを復習するなど勉強はもちろんですが、それよりも日々の授業態度や提出物を期限までに出すというところが一番大事だと思いました。自分は勉強が得意ではないのでテストの点数よりも平常点を満点ちかくとれるようにしました。

二つ目は面接練習です。面接練習はいろんな先生と練習することを頑張りました。いろんな先生と練習したほうが質問してくる内容も違うし指摘されることが違うのですごくいい練習になりました。面接練習で大事だと思ったのが、自分の考えを恥ずかしがらずに面接官に伝えることです。面接練習の質問に対する答えに正解や間違いはないと思うので自分の考えをはっきりと伝えられるように練習を頑張ってください。

働き始めてから大切なこと 必要だと思ったこと

私は今遊佐象潟高速道路の開通にむけた解体作業や舗装工事の現場の仕事をしています。少しずつでも現場の仕事を覚えて資格取得をして自分で現場を持てるように頑張ります。

社会人として必要だと感じたことの一つ目は定期考査のことでも話した提出物を期限までにしっかり出すということです。工事をするにあたって提出しなければならない書類がたくさん出てきます。提出するのが遅れたりすると自社だけでなく他社にも迷惑がかかってしまいます。高校生のうちから提出物は期限を守るということが当たり前にできると社会人になってからも苦労しないと思います。

二つ目は挨拶です。建設業ではコミュニケーション力や挨拶がとても大切になってきます。自分は高校で硬式野球部に所属していました。日々の練習では技術向上に向けた練習とそれ以上に挨拶や礼儀などと人間性について厳しく教えてもらいました。社会人になって働くようになってから挨拶で褒められることがたくさんありました。部活では当たり前だと思っていたことが褒められてすごく嬉しかったし、野球をやっていてよかったと思いました。部活に入っている人も入っていない人も日頃の生活から相手に伝わるような挨拶を意識してやってみてください。

高校生へのメッセージ

最後に、高校の三年間は心も体も大きく成長できる三年間です。人間関係や部活で思うようにいかないときは絶対あると思います。でも楽しいことも絶対あると思います。楽しむときは全力で楽しんでください。高校生活でしかできないことがたくさんあると社会人になってすごく感じています。卒業したときに西目高校に入学してよかったなと思えるようにこれからの高校生活を過ごしてください。